

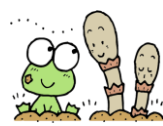
八多小学校だより

平成30年度
3月号
神戸市立八多小学校



巣立ちの春

～感謝と共にしめくいを～



学校の四季がひとめぐりし、いよいよ巣立ちの日が近づきました。1年生は2年生に、2年生は3年生に、3年生は4年生に、5年生は最高学年の6年生に、一か月後にはそれぞれ巣立っていきます。そして、6年生はいよいよ卒業です。6年生17人が八多小学校平成30年度卒業生として巣立っていきます。冬季野外活動では、大沢小学校の皆さんと共に充実した二泊三日のスキー体験をし、小学生生活最後の楽しい思い出作りができました。また、自分たちの卒業式を作るための練習が始まります。子供たちは、卒業式を境にして、自立への道をまた一步踏み出します。卒業式は出口であり、そして入口でもあります。他の学年の子供たちも、次の学年への一步を踏み出せるように、一年間のまとめに取り組んでいます。進学・進級への大事な残り16日間を大切に過ごしていきたいと思います。

先月の授業参観・懇談会には、多くの方々にお越しいただきありがとうございました。子供たちの様子はいかがだったでしょうか。私は、「ずいぶんお兄さん、お姉さんになってきたなあ」と実感しました。保護者の皆様は、毎日お子さんを見ておられるので、あまり変化を感じられないかもしれませんが、4月のころと比べると、この一年間でできるようになったことは、びっくりするほどあると思います。どこかで立ち止まり、振り返ることはとても大切なことです。日々の多忙な生活の中でお子さんの成長に気づくことはなかなか難しいかもしれませんが、どの子も皆、目を見張るほどの成長をしています。そして、子供たちが自分自身の成長に気づくことも重要です。できるようになったことに気づくことで、自己肯定感が生まれ、それが自分自身の自信となり、次の意欲へとつながります。

授業の中で「見通しと振り返り」を大切にしてきました。授業の初めにその授業のめあてを提示し「見通し」を持たせる、授業の終わりで何を学習し、何ができるようになったか「振り返り」確認をするといった形態です。これは授業だけではなく、いろいろな場面でも活用できます。子供たちに自信を持たせ、自尊感情を培うためには必要なことです。できるようになった時には、「すごい。」と思いきりほめていただき、できるようになった喜びをお子さんと一緒に共感していただきたいと思います。

どの学年の子供たちも、この一年間、多くの保護者・地域の方々に支えられ育ってきました。本年度保護者・地域の方々をはじめ各方面から賜りました本校教育に対する多大なご支援と温かいご協力に、心から感謝申し上げます。一生懸命頑張る子供たちと共に、教職員一同今年度の総まとめをし、巣立ちの春を迎えたいと思います。

校長 小原 耕司

日々の中で

事務職員の私が行っている事務処理の多くは、無機質なパソコン画面の数字やデータ、毎日送られてくるメールや文書の文字が相手です。でもそのような日々の中で、私自身の心が潤う瞬間があります。

職員室の自分の席に座っていつも朝のうちに済ませる仕事をしていると、毎朝各学年の保健係の子どもたちが、朝の挨拶とともに欠席調べを届けにやってきました。「おはようございます。」子どもたちと朝の挨拶をかわすひとは、私には心のオアシスのように感じられます。

学校に配分された予算で購入した品物の代金や、施設の補修の代金を支払うときに作成する支出命令書という書類があります。最近様々なシステムが整い、データのやり取りで事務処理できることも多くなりましたが、公費の支払いをする時は、パソコンで入力した書類をプリントアウトして決裁の印鑑を押して処理が完了します。印刷した支出命令書にまず自分の印を押し、教頭先生、校長先生の決裁印を押していただき、自分の手元に戻ってきた朱肉で赤く印を押された書類を見ると、いつもただの紙だった支出命令書に命が吹き込まれたような気がして、少し嬉しくなります。

日々、先生方の勤務状況の確認や予算の年間計画の立案、徴収金のスムーズな事務処理を行うためには、先生方とのコミュニケーションが欠かせません。正確に報告を行い、より効率よく効果的に予算を使っていくために、限られた時間の中で声を掛けて説明し、確認します。そして普段から職員室の先生方のちょっとした会話にも耳を傾けます。そこには子どもたちへの思いに溢れた大切な情報がたくさん隠れています。何より、私自身にとって先生方と言葉を交わすことが楽しく、先生方とともにまた仕事を頑張ろうと元気が出てくるのです。

学校という職場で日々私がたくさんいただいているものを活力にして、事務職員として子どもたちにとってより良い学習環境づくりの力になりたいと思います。

事務職員 中谷 直子

八多小学校で子供たちと学習に携わって4年になりました。今年度も主に3, 4年生の算数の授業を中心にサポートに入っています。

毎日の宿題を通して学習の定着度を確認しながら、授業の中で個々の理解度に応じて個別にアドバイスをしたり、自信をもって発表できるように背中を押したりと、わかる喜びやできた時の楽しさを感じてもらえるような支援を心がけています。

「数字はていねいに！」よく言う言葉です。「そんなこと言たって字下手だもん」こう言い返されることが多いです。「ていねいな字と上手な字はちがうよ」…と答えます。雑に書くことによって0なのか6なのか・・・7なのか9なのか・・・

自分で書いた字がわからなくなる子もいます。計算ができていても正しく読み取ることができないのは残念です。例えば、算数はだいたい

まる
6にみえるから○ではなく6だから○になるのです。上手じゃなくてもいいのです。宿題やプリントで読み取りづらい字には「読めません、これ何?」「書き直しましょう」と指示をします。

せつかくの答えがお直しになることになります。日記やメモなど自分のために書くものであれば雑でもかまわないかもしれませんが、宿題やテストなど誰か相手に読んでもらうことが前提ならば間違われなないようにしなければなりません。

これからもていねいに書くように、声をかけていきたいです。

学ぶ力・生きる力向上支援員 後藤 亜紀